

Servas Japan Tohoku



支部ニュース



No. 85

支部長挨拶

旅行者受け入れ報告

① Y. T	2
② S. M	2
③ N. T	2
④ N. T	3
⑤ T. N	4
⑥・⑦ M. O	4
国内会議報告	6
支部総会報告	6
参加者の感想	H. H	7
東日本大震災支援プロジェクト活動報告	N. T	8



支部長挨拶

すがすがしい季節になりましたね。

N. T (新潟県)

みなさんお元気ですか？消費税が上がり1ヶ月、新たな負担の時代に入りましたね。さらに、国内外に何かと物騒というか、きな臭い事件が多いですね。

ところで、秋に行けなかった東海支部さんには、東海支部長のご配慮で、6月21から22日にJICAの同期会を開催出来ることになりました。今から楽しみです。

布芝居を普及しようと思い、家内の実母の特養の里で4月に上演し、イスラエルのホームステイ者や、冥加屋ハウスに宿泊のフランス人夫妻にも上演しました。下旬には、我が村の老人会で、予定外でしたが、上演の機会も得ました。

我が家の変化では、3月20日に子供がめでたく小学校を卒業し、中学校に進学しました。4月から次男も燕市に転職して家から通勤しています。

さて、先月は支部総会、今月はワールドカップです。明日に向けて、若い方々と交流し、新会員を増やして、楽しい東北支部にしていきましょう。

最後に、私の5月のテーマは即行の実践です。すがすがしい季節にもってこいですね。目が覚めたらすぐ起きる。実践していきたいものです。

『今が最良のときだと心得て、気づいたことを直ちに行おう。
心配事がきざしたら、すぐ対策を考え、一つでも手を打っておく。
こうした習慣を身につけると、直感能力は、鋭敏になり、無限に向上していく。
洞察力、決断力などあらゆる能力が高まっていく。
グズグズせず、後まわしにせず、気軽にサッと片づける。』

旅行者受け入れ報告**① Y S (M) & M P (F) Israel****Y. T (新潟県)**

イスラエルの27才と21才のとても若いカップル、**Y S (M)**と**M P**最初の滞在は2泊3日、**M P**が捻挫をしていたので、近くでの花見スポット、自転車でひとまわり、夕食の時間までに戻る事を言って街を散策。

夕食は家族全員で我が家の庭の枝垂れ桜を見ながら食事、イスラエル料理何も作らず、いつもの母の料理に全員英語で参加、楽しい時間を過ごしました。

M Pの捻挫が悪化したため、我が家に助けの電話が入り、再び家に戻り、病院に連れて行き、診察、



歩いてはいけませんとドクターから言われ、我が家に滞在することにしました。捻挫を治すことが重要、出かける予定は全部キャンセルして、我が家にとどまる事になりました。

知り合いの中学校の校長先生にお願ひし、英語の授業に参加して、イスラエルの位置や、ヘブライ語、徴兵制、部活など日本との違いなど話していただきました。

我が家にもなれつつ過ごして居るところに、葬式がはおり、大阪のホームステイに戻る事になりました。

イスラエルに戻ったら結婚をすと、話していました。

お幸せに**Y S (M)**と**M P****② 2/1-2日 V P (M) 米国****S. M (宮城県)**

ウクライナ出身である。しかしウクライナという国に希望がなく30歳の時、家族と共にアメリカに移住したそうです。極限られた人たちにしか移民が許されなかったのに自分たち家族はアメリカに移民ができてとても幸運ですと言っていました。移民に伴う苦労も多かったでしょうが、複雑な彼の胸中にまでは触れることはできませんでした。

札幌の「雪祭り見学」の途中での我が家の一泊だけの滞在でした。余りにも時間が無く案じていたところ「筆と硯」を旅行鞆から持ってきて「書道」をしたいと言うのではないですか。びっくりしながらもとても嬉しかったです。彼が出身国・ウクライナの大学時代に日本人の先生に書道を習ったそうです。それから30年以上経って、日本に旅をするにあたって「筆と硯」を持って行こうと決めたそうです。我が家に滞在したサーバス・トラベラーは600名以上もいますが、「筆と硯」を持って来てくれたのは彼が初めてでした。一泊の短い滞在でしたが強く印象に残るトラベラーの一人となりました。

日本語、日本文化、日本食と日本が大好きな彼のために私は早速「書道教室」を開き、楽しい時間を過ごしました。

**③ Yさん(26歳男子)とMさん(女性21歳)イスラエル****N. T (新潟県)**

先日 イスラエルからのY(26歳男子)とMさん(女性21歳)の若い友人たちを受け入れました。4月16日の夕方、駅で待ち合わせました。約束の18時15分に行きましたら、既に駅に降り立っていました。

次男と娘と孫を入れて全部で7人の夕食は久しぶりでした。前日のホストのところでは、何を召し上がったのかを聞いてみましたが、私のところは手巻き寿司でした。

マヤさんはベジタリアンでしたので、みんなが野菜を中心に分けてやりました。彼女はご飯もしっかり食べました。彼らは夜遅くまでインターネットをしていたのかな？



二人は2泊の予定だったようですが、1泊の約束をしたので、ハウスを紹介しましたが、夜のうちにインターネットで調べて、翌日私に仙台の駅前のスマイルホテルを予約させましたが、結局行かずじまいで、ホテルから電話で確認の入る事態になりました。

ところで、翌日の朝食は我が家ではパンですが、ご飯も分けながらどちらも食べられました。朝7時半の朝食時間を守って、きっかりに母屋に来ました。ビックリでした。

朝食後の10時半までの間に、荷物の整理をして、着物をMさんに着せて写真を撮り、布芝居の桃太郎を上演して過ごしました。

10時半に我が家を出て、駅まで行き、荷物を喫茶店に置き、全員で神社を参拝して、彼は登山、彼女は駅前の喫茶店で時間を潰していました。二人はあとで合流して、仙台に向かいました。久しぶりに下手な英会話の一日でした。



④ 4/17-4/19日 イスラエル Y H 55歳 N H 52歳

N. T (宮城県)

タブレットでイスラエルの紹介をしてくれました。写真などは政府広報のイスラエル紹介の中からY Hが選び、それらを再構成して作った番組を見せてくれました。完成度がとても高い作品なので、すべてを自分で作ったのかと尋ねましたら、写真は政府広報ののだということでした。彼はエンジニアだったので、制作はお手の物だったようです。とてもわかりやすく美しいイスラエルの紹介でした。このようにわかりやすい日本紹介があればいいのと思いました。

彼らの家はイスラエル独特の共同生活なのだろうかと思ねると、そうではなく居住エリアがあって、その中で暮らしているということでした。エリアの中には小さなお店や集会所もあるが、そこから外の都市に働きに出たり、大きなショッピングモールに買い物に出かけることも自由に行っているとのことでした。何しろ東西が50kmで南北に400km位の小さな国です。ユダヤ教、キリスト教、イスラム教の歴史的遺跡も多く、歴史散歩にもいいし、地中海の東端に位置し、地中海性気候の影響もあるためアボカドも樹高が10m以上に育つくらいの暖かさがあると同時に山もあって、スキーを楽しむこともできるのだそうです。

イスラエルサーバスには、サーバスユースセクレタリー、ピースセクレタリーが複数いてそれぞれが活発に活動をしているとのことでした。今年のキルギスタンでのユースミーティングに多くのアジアンホストの参加を期待しているとのことでした。

なぜヨーロッパでユースミーティングに多くの若者が集まるのかが疑問でしたので聞きますと、ヨーロッパには若いサーバスホストが多くいて、彼らの交流を深めるのが目的だということです。日本では親がホストであっても、子供たちが独立してホストになることはそう多くはないことを説明すると、唸っていました。この違い、各国の文化、風習による考え方の違いによるものなのでしょうか。

また、ピースセクレタリーとは何をするのか、具体的な活動はあるのだろうか聞いてみましたが、わからないということでした。実際本部からくるメールにおいても具体的な内容は示されないため、各国の実情に応じて活動内容が決まるようでした。日本では何をしているのかと聞かれたので、一昨年度の国内会議で紹介した、東日本大震災での支援活動をまとめたパワーポイントを見せて説明したら、帰国したらイスラエルサーバスに見せたいからくれ、というのでそれまでの写真や映像などをDVDにしてあげました。

彼女はウッドクラフトが専門だそうで、「こけし」に興味があるということで、こけし村では興味深く見つけていました。遊びコーナーで見つけた「ダルマ落とし」に二人ともハマってしまいました。

蔵王のお釜に行きたいということで出かけましたが、エコラインは4月25日から開通ということで、澄川グレンデまでしか到達できませんでした。帰り道を峩々温泉から青根方面に抜ける道も通行止めで、残念ながら途中で引き返してきました。それでも遠刈田温泉の足湯が面白いと足を入れていました。水芭蕉の花が咲いているという情報をもとに、群生地へ寄り道。その幻想的な情景に「アメイジング」を連発していました。

別れの日、私の会で近所の高齢者を迎えての月一度の食事会。帰りの電車まで時間が少しあったので、台所で調理のお手伝いをしていただいて、駅へ。駅前でJRキャンペーン隊の甲冑武者に出会いました。ズボンにワイシャツの上に甲冑をつけた観光「にわか武者」でしたが、二人は大喜びと一緒に写真を撮

撮って、次の地に行きました。

二人ともベジタリアンでしたがヨーグルトなどの発酵食品や卵は食べました。到着した日にスーパーマーケットに行きましたら、品物の多さに驚いていました。豆類は国でも多く食べるようで、日本の豆類も多く輸入されており興味があるようでした。また、お茶をよく飲むのだそうですが、特に「玄米茶」がおいしいと言っていました。スーパーで買って帰るから、パッケージに書いてる日本語を教えてくださいというくらいでした。魚介類の種類が多いことにも驚いていて、「イカ」と「シジミ」は見たことがないし食べたことがないというので、昆布シジミの佃煮を朝食にしたら、ととてもデリシヤスだと喜んで食べていました。イカリングにも挑戦しました。

この次日本にきたら、被災地を案内すると言いましたら、「じゃ3年後にまた来る」と笑っていました。多くのトラベラーを連れてきて欲しいものです。

⑤ 4/19-4/20日 イスラエル Y H 55歳 Mrs. N H 52歳

T. N (福島県)

初めに彼らを福島市民家園に案内しました。ご夫婦は伝統的な日本の家屋の構造に深く関心を持たれました。藁葺き屋根の家、玄関を入ると土間があり、そして引き続きの台所。さらに囲炉裏がある日本文化に素晴らしいと感動してくれた。



次に桜の名所・花見山に行きました。駐車場がないので、中には入れないとは知っていましたが、花見山をどうしても見せたくて強引に彼らを連れて行きました。春日神社の近くに秘密の space を見つけて車を止めることができました。震災後に見物人が少し減っていますが、今年も200,000人もの大勢の人々が花見山に訪れたそうです。

ご夫婦は福島に来る前はこんなに緑があり、美しい花々が咲き誇っているとは思ってもみなかったそうです。 Seeing is believing!

私としては彼らに「福島は未来を見て進んでいる」ことを強調しました。

- ① 染によって放射線量の低下ができています。
- ② 健康チェックの実施をしている。
- ③ 水を含めて食べ物の安全性を確保している。

この3つをあげて福島は十分居住が可能であるとも説明しました。

穏やかなご夫婦との時間はとても楽しいものでした。以上

⑥ 4月18日(金)~4月20日(日)

M. O (宮城県)

そもそも彼らが日本へ旅行に来ようと思ったのは、Mの母親がかつて Servas を使って日本を旅行したことがあり、人も親切でとてもいい国だという話を聞いたからだそうだ。Yが26歳、Mが21歳と2人ともとても若いのに、話をする毎に、広い視野の持ち主で自分の考えをしっかりと持っている人たちだという印象を受けた。彼らを迎え入れるまでイスラエルという国についてほとんど知らなかったが彼らと生活を共にした3日2晩の間に色々話を聞くことができた。イスラエルには男性にも女性にも徴兵制度があり、必ず2~3年は軍隊に入ることになっているそうだ。通常、その数年間で少年少女は多くを学び成長するという話だった。ただ、国民の2割弱を占めるアラブ人には徴兵が免除されるらしい。2人とも徴兵を終えて死海の近くに家を借りて一緒に住み始めたばかりだそうだ。Yは今死海のライフセーバーをしている

と言っていた。イスラエルというとユダヤ教国家だが、彼らはユダヤ教徒ではない。彼らの祖父母の代が当時共産主義だったロシアでのユダヤ教徒迫害から逃れイスラエルに移民してきたらしい。人口の80%を占めるユダヤ教徒も半数は外国からの移民らしい。Yの両親はユダヤ教徒、Mの祖父母もユダヤ教徒だそうだが、



2人は無宗教主義だ。それぞれが信じる宗教だけが唯一だと信じて他をすべて否定し、無意味に争ったり殺し合いをしたりするのはばかげている、というのが彼らの信念だ。彼らが日本を愛する1つの理由は、仏教や神道の他を受け入れる寛容さだという。彼らとは、私の家のすぐ裏にある桜の名所、三神峰公園へ行き、閉上の被災地域へ案内した。それから塩釜神社のろうそくの灯りで愛でる夜桜とお神楽のコンサートに行った。残念なことに、Mが仙台に来る前に高尾山のハイキングで足首を痛めてしまい、思うように歩けない状態だったが、それでも喜んでもらえたのではないかと思う。桜前線に乗ってやってきた彼らはまた南へ向かって旅立って行った。



おまけ：サーバスゲスト七不思議の1つ。サーバスゲストと外食する時、よく「まるまつ」というローコスト和食レストランに行く。家から歩いてすぐだし、いいレストランに連れて行っても外国のゲストは必ずしも喜ぶとは限らないから、このレストランはちょうどリーズナブルなのだ。まるまつではお客のために無料のスープをサービスで置いている。本当に何の変哲もないただコンソメをお湯に溶かして、そこにくず野菜を刻んだのが入っているだけのような、日本人から見ればとても”チープな“スープだ。私などはこれをスープとは呼ばずに「コンソメお湯」と呼び、特に飲みたくもないが無料だからとりあえず飲んでみる、程度の価値しかないものだとして評価している。だが、これが意外にも外国人ゲストには好評なのだ！以前ゲストを連れて行ったときも「おいしい」と言っていたし、今回のゲストも「注文した料理よりもこのスープが一番おいしい」と言っていた。全く、外国のゲストは何を喜ぶか本当にわからないと改めて再認識した。

⑦ 2月12日(水)～2月15日(土) VP (M) U.S.A

M. O (宮城県)

もともとはウクライナ出身で、大分大人になってから家族と一緒にアメリカへ移民した彼は、そもそも大学の教員だった。が、今は大学を辞めて自分で英語学校を経営したり、大学で夕方、一般人向けに行われる為替株などの投資講座の非常勤講師をしたりしている。大学の教員になって辞めたいと思う人はそういないと思うし、自分でも大学教員時代は高給取りだったとか、退職金も想像以上の金額をもらった、とか言っているのに、そもそもなぜ大学を辞めたの？という疑問は自然と湧いた。その質問に彼は、「大学では年に3週間しか休暇がもらえないし、人間1回しか生きられないのだから、一生機に向かっていくより色々な所へ行って人と会ったり、その土地の文化を知ったりした方がいい。」ということだった。



平日の滞在だったので、息子が午後3時に帰宅することから、彼には終日単独行動をしていただいた。朝皆がバタバタと朝食をかき込み出掛ける中、毎朝9時過ぎにやっと起きて来るといふかなりのマイペースな彼に、若干イラつきつつも、まあ、アメリカは個人主義の国だし、彼はまだかなりいい方なのかもしれない、と思ったりした。

1年前にサーバストラベラーの認定を受けて、1年間ずっと旅行していたようで、日本ももう2ヶ月旅行して回っているということだった。それでも日本全部を回するには2ヶ月では無理、ということで今回は北

んな世の中だもの、せめて、サーバスでご縁をいただいた人だけでも、信じて、いいじゃない。騙されるんじゃないかって、びくびくするより、騙す人をも包んでしまう、愛の人になりたいじゃない。Mさんご夫婦の、懐の深さ、温かさに、心から感激しました。

これからも、サーバスで出会えた方々のご縁を、人生の宝として、積んでいきたいと思えます。すばらしい支部総会での出会い、本当にありがとうございました。

【事務局から】 新入会員お一人、5月の入会となりました。これまでヨーロッパ、東南アジア中国、USAを旅行されています。

東日本大震災支援プロジェクト2013活動報告（抄録）

Peace Secretary N. T



2013年も皆様から、布地、毛糸、支援金をいただきましてありがとうございます。気仙沼市本吉町での活動を報告いたします。

5月14,15日 私の甥（北海道）の介護関係の会社さんが3年間お米を毎月465キロ送ってくれました。その締めくくりとして専務さんと共に気仙沼を訪れました。

小泉地区の小泉中学校の校庭にはこの地区最大の仮設住宅があります。中学校は、小学校に隣接しています。O氏は小学校のある高台の北岸（津波が遡上した対岸に住み、長年育てた10万本の水仙を流されました。この地区で水仙まつりを主宰していた方です。

（写真左：気仙沼市立小泉小学校の北側の駐車場に建てられた記念碑）

（写真右：中学校仮設住宅の前で）



この日、最後のお米を小学校の児童にと用意してくれましたので、当日は贈呈式になりました。写真はワカメの貯蔵冷蔵庫と生産者）

NPOから寄付していただいたわかめの冷蔵庫を見に訪問。本格的にワカメ漁が始まっていました。お湯に戻しても茎が柔らかい逸品です



7月20日気仙沼 布地、消毒薬 運搬

7月30日気仙沼 布地 運搬

10月7日気仙沼 布地 運搬

10月22日気仙沼 布地

ご支援いただきました布地や着物地の中にはまだまだ使えるものもありました。着物は流されて、仮設にいる間、着物に縁は無い・・・とお話しいただいていましたが、袖を通して使えるものは喜んでいただきました。

10月26日気仙沼 食器、米：ワカメ漁の奥様が、国道沿いにお店を出しました。新鮮なワカメとちょっとした食事を出してくれます。出店お祝いにと食器類や鍋や米などを贈りました。

11月3、4日の市民文化祭には文化協会を中心として、仮設の手芸クラブのお母さんを招いて当時のお話をさせていただき、次の日は手芸品を文化祭で出店販売しました。



12月13日 気仙沼

12月22日 年越しの餅つきとクリスマスプレゼントを子供たちへ。

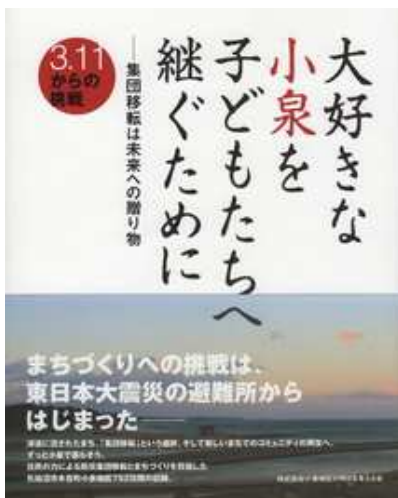
あらかじめ、子供たちの希望を聞いておいてプレゼントを用意しました。震災後に誕生した一歳を迎える幼児二人を含む小学生と中学生が待っていてくれました。



プレゼントを配っている間にスタッフがもち米をふかして、餅つきの準備。この日は45kgの餅をつきました。仮設の家族の方々と楽しいひと時。餅つきの道具も流され、仮設には置く場所もないために、すべての道具を持参しての餅つきで、今年で3年目の年越しとなりました。



この仮設に住んで、集団移転を考える会社ができ、本も出版しました



現在の取り組み

- ① 水仙祭りの復興を願い、球根の提供をお願いしております。
- ② 被災地はどれも荒涼とした原野になって、手をかけることのない野地になっています。そこで、秋になりましたら、近所で咲いたコスモスの種を採取して送っていただいて、春先に小学校に送り、まいてもらおうと考えています。こちらは封書でも可能です。
- ③ 布地、端切れ、和服地（和服をほどかずにそのまま結構です）、毛糸も提供ください。
- ④ 集団移転（およそ2年後）を機に、移転地や各家に、花の苗や樹木のプレゼントを考えております。こちらの詳細は後日お願いします。